

いよいよ始まる淘汰の時代

健全化に動き出した遺品整理業界

近年、業界内外から注目を集める遺品整理業。その反面、悪質な業者によるトラブルも少なくない。こうした中、2015年2月、サービスの品質向上を目指す新たな業界団体、家財整理相談窓口(東京・新宿、神野敏幸代表理事)が発足した。一方、遺品整理に対する行政の関心も高まっており、業界の底上げが加速しつつある。

帯広市、函南町などで 遺品整理限定許可

総務省統計局が実施する「遺品整理」は、15年度実施調査に「生前整理、特殊清掃など、高齢化時代の高齢者人口の増加に伴って、65歳以上の高齢者人口は3384万人(15年9月15日時点推計)。総人口に占める割合は26.7%で、割合も過去最高となつた。また、80歳以上の人口が初めて1000万人を超えた。急速に進む高齢化を背景に、社会問題となっているのが孤立死・孤独死だ。ニッセイ基礎研究所の調査報告書(11年)によれば、死後、自死した65歳以上の孤立死の年間推計発生数は7万6821人。およそ1時間、家庭系一階であるか、2階であるか、許可業者の場合、事前確認を要する。事業系一階に限定され、取り扱えない。正しく知

新業界団体発足、自治体の意識向上も

15年2月、東京を拠点とする新たな業界団体「家財整理相談窓口」が発足した。同団体は、家主・賃貸人・居住者が持つ「遺品整理」に関する相談窓口、以上3つの窓口としての機能を担う。

安心・安全な遺品整理を

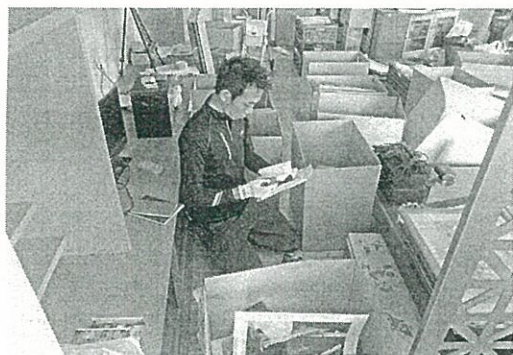
現在、同団体には遺品整理業者や特殊清掃業者など正会員12社、準会員7社が加盟している。新規入会希望者に対しては、最寄りの理事が会社を訪問し、代表者の想いを聞き、その取組や「リサイクル」の取組などについて、実際に現場を視察し、その品質の高さを確認する。その後、1年間の準備期間を経て、正式に加盟する。



遺品整理業界の健全化を促す「家財整理相談窓口」が発足



約70人が集った設立記念講演会(2015年11月13日)



1011の遺品整理手帳に付け(リック)



腐敗臭の充満した部屋を噴霧機で除菌(マインドカンパニー)

「家財整理相談窓口」は、家主・賃貸人・居住者が持つ「遺品整理」に関する相談窓口、以上3つの窓口としての機能を担う。主な活動内容は以下の4つとなっている。

- ①消費者向けセミナー
- ②講座開催(家財整理に関する広報、情報提供、加盟業者の紹介)
- ③家財整理に関する相談窓口(消費者や関係団体からの相談、問い合わせ、折衝)
- ④加盟企業への指導(消費者からの相談や苦情などを元に加盟企業に指導を行い、家財整理業者の健全化を図る)

同団体は、消費者に安心安全な家財整理サービスを提供することを目指している。その中で、既存の廃棄物処理業者よりもユニークな条件を設け、会員企業は「主を兼ねた」から「一歩進んだ家財整理サービス」を展開している。

例えば、神野代表理事が代表取締役を務めるリック(愛知県東海市)では、リユース・リサイクルに特化した遺品整理を行っている。質の高い特殊清掃サービスを展開している。

孤立死・孤独死の現場では、しばしば遺体の腐敗が進み、流れたしさを述べている。

静岡県函南町も15年3月、廃棄物の収集・処理を手掛ける富士興産(静岡興産東部清水町、石井徹代表)に遺品整理の依頼を受けた。市町村に対して、遺品整理の依頼があった場合は「遺品整理時に発生した可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ」で、帯広市と異なり、引越ごみなどの収集は認められていない。函南町の担当者は「これまで遺品整理に関する町民からの相談はほとんどなかったが、独居老人は着実に増えている。将来的な需要を見越して許可を出した」と語る。

また、函南町と隣接しているといえる帯広市、函南町は「これまで遺品整理に関する町民からの相談はほとんどなかったが、独居老人は着実に増えている。将来的な需要を見越して許可を出した」と語る。

また、函南町と隣接しているといえる帯広市、函南町は「これまで遺品整理に関する町民からの相談はほとんどなかったが、独居老人は着実に増えている。将来的な需要を見越して許可を出した」と語る。

業界の向上を目指す 新たな団体が誕生

15年2月、東京を拠点とする新たな業界団体「家財整理相談窓口」が発足した。同団体は、家主・賃貸人・居住者が持つ「遺品整理」に関する相談窓口、以上3つの窓口としての機能を担う。

主な活動内容は以下の4つとなっている。

- ①消費者向けセミナー
- ②講座開催(家財整理に関する広報、情報提供、加盟業者の紹介)
- ③家財整理に関する相談窓口(消費者や関係団体からの相談、問い合わせ、折衝)
- ④加盟企業への指導(消費者からの相談や苦情などを元に加盟企業に指導を行い、家財整理業者の健全化を図る)

同団体は、消費者に安心安全な家財整理サービスを提供することを目指している。その中で、既存の廃棄物処理業者よりもユニークな条件を設け、会員企業は「主を兼ねた」から「一歩進んだ家財整理サービス」を展開している。

例えば、神野代表理事が代表取締役を務めるリック(愛知県東海市)では、リユース・リサイクルに特化した遺品整理を行っている。質の高い特殊清掃サービスを展開している。

孤立死・孤独死の現場では、しばしば遺体の腐敗が進み、流れたしさを述べている。

業界の向上を目指す

新たな団体が誕生

15年2月、東京を拠点とする新たな業界団体「家財整理相談窓口」が発足した。同団体は、家主・賃貸人・居住者が持つ「遺品整理」に関する相談窓口、以上3つの窓口としての機能を担う。

主な活動内容は以下の4つとなっている。

- ①消費者向けセミナー
- ②講座開催(家財整理に関する広報、情報提供、加盟業者の紹介)
- ③家財整理に関する相談窓口(消費者や関係団体からの相談、問い合わせ、折衝)
- ④加盟企業への指導(消費者からの相談や苦情などを元に加盟企業に指導を行い、家財整理業者の健全化を図る)

同団体は、消費者に安心安全な家財整理サービスを提供することを目指している。その中で、既存の廃棄物処理業者よりもユニークな条件を設け、会員企業は「主を兼ねた」から「一歩進んだ家財整理サービス」を展開している。

例えば、神野代表理事が代表取締役を務めるリック(愛知県東海市)では、リユース・リサイクルに特化した遺品整理を行っている。質の高い特殊清掃サービスを展開している。

孤立死・孤独死の現場では、しばしば遺体の腐敗が進み、流れたしさを述べている。